



夏季死亡災害ゼロ101日運動通信

【運動期間：令和7年6月1日～令和7年9月9日】

令和7年
7月号

災害事例

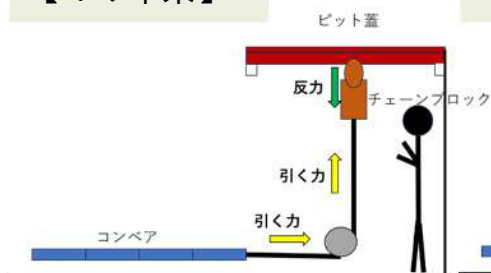
道具の使い方や取付位置によって、危険が大きく変わります

【災害発生状況】

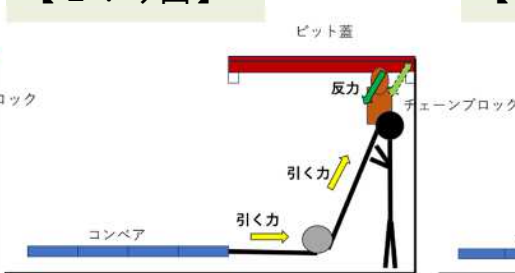
工場内にプレス機械を設置するための関連別途工事として、地下ピットに廃材搬送用のベルトコンベアを現地組み立て設置する工事を行っていました。

前半は組み足していくベルトコンベアをウインチにより水平（Uターン）に引いていましたが、その長さ・重量が大きくなったことから、チェーンブロックで補助けん引することとしました。チェーンブロックの取付位置として、本来は、ベルトコンベアのシャフトを介してL字状態の垂直位置であるピット蓋の裏側箇所に取り付けるべき（反力も垂直に働き、ピット蓋は動かない）ですが、この時は、先に別部材の仮固定用として当該垂直位置から50cmズレた位置にチェーンブロックがかかっておりこの取付位置を変えずにこのチェーンブロックを利用して斜め状態のままで補助けん引利用することとした結果、チェーンブロックの反力が斜めに働き、ピット蓋（重量約500kg）が動いてしまい、チェーンブロック取扱者（30代前半）の頭上に落下しました。意識不明が続きましたが、数日後に一命を取り留めました。

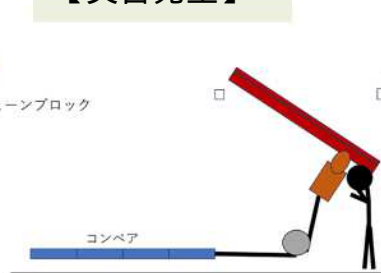
【1. 本来】



【2. 今回】



【災害発生】



- チェーンブロックに限らず、すべての道具について、危険性と適切な使い方を考えましょう
- 死亡災害ゼロ101日運動期間中です。日常的な仕事の進め方（計画策定、作業開始前打ち合わせなど）も丁寧に十分に進め、絶対に死亡災害を起こさないようお願いします。

（作業打合せでは、「まとめり作業」>「単位作業」>「要素作業」の中の「要素作業」といった細かいところまで踏み込んで打ち合わせることが大切です）

7月は『STOP 熱中症クールワークキャンペーン』の重点取組期間です



STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン

準備

キャンペーン期間

4月

5月

6月

7月

8月

9月

重点取組

重点取組期間に
すべし

- 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- 暑さ指数に応じた作業の中断等の徹底
- 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- 熱中症リスクが高まっていることを含め教育を実施
- 体調不良の者に異常を認めたときは、躊躇することなく救急車を要請

〔参考〕昨年と今年の
最高気温の状況
（一関）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2024年	29.1	30.6	32.8	36.6	35.0	33.1	30.5
2025年	26.0	30.3	35.2				

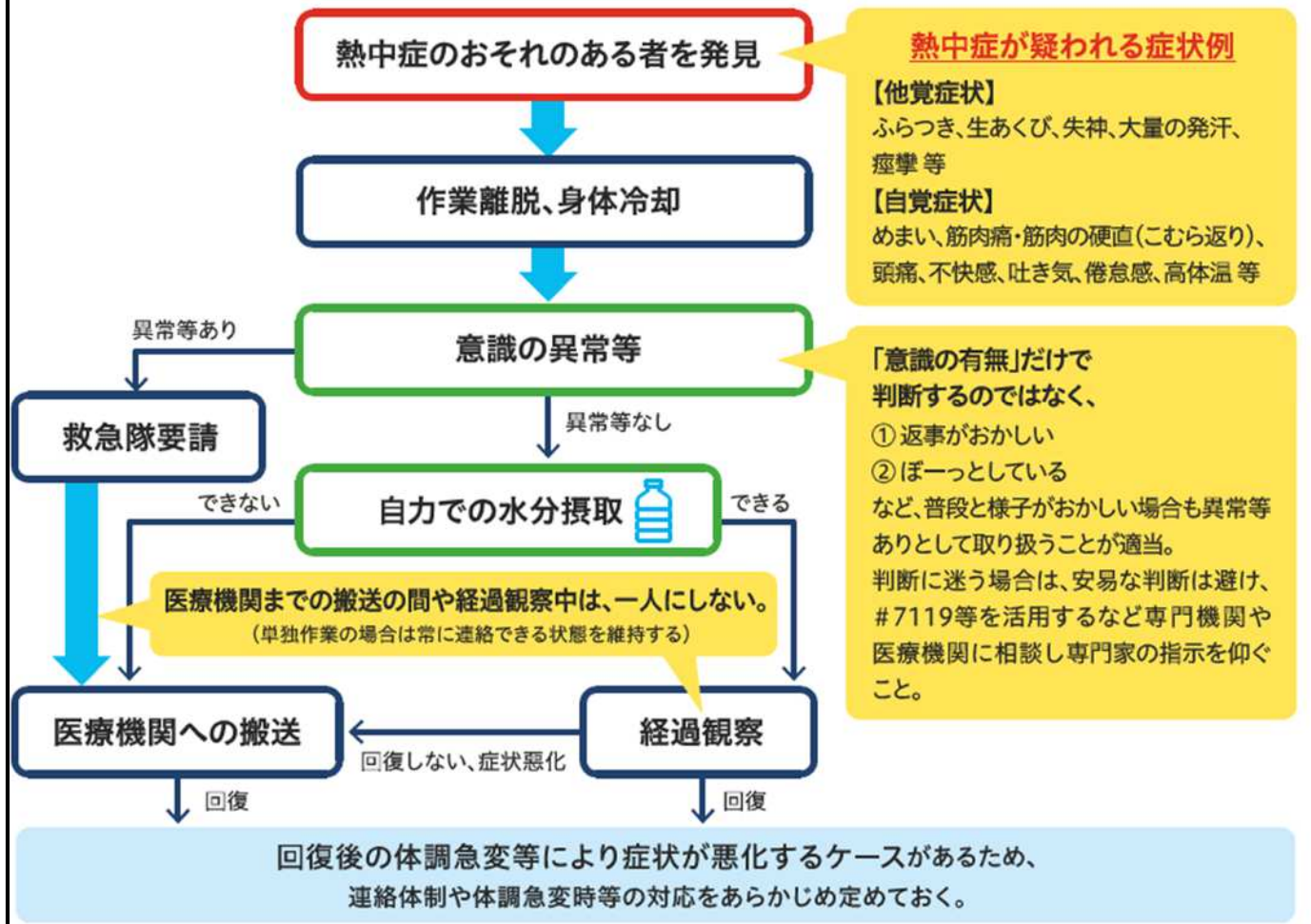
令和7年6月1日から施行の熱中症に係る省令改正で求められるもの

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより熱中症の重篤化を防止するため「**報告体制整備**」「（不調者発見時の）**措置内容と手順を作成**」「**関係者への周知**」が事業者には義務付けられました。このうちの「**関係者への周知**」については、下のフロー図が例示されています。

6月中旬（最高気温35.2度）のある日に、工事現場8箇所をパトロールしたところ、1現場しか周知（このフロー図の掲示）が行われていませんでした。皆様の職場でも熱中症対応が適切に行えるようにするため、事業者、衛生管理者または衛生推進者において、作成をお願いします。また、働く皆様も、いざという時に適切に対応できるよう、周知された内容の把握をお願いします。

熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図 ①

※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



全国安全週間の実施事項として「（５）緊急時の措置に係る必要な訓練の実施」がありますので、一度職場の皆さんで、具体的な手順と内容の確認をしていただくのが良いと思われます。

今年度も 安全衛生管理の『事例』を募集中です

募集期間：5月1日～7月31日



ご報告用紙



労働災害の発生状況

一関労働基準監督署管内で令和7年に発生した休業4日以上の労働災害による死傷者数（新型コロナウイルス感染症によるものを除く）（5月末現在）は全産業において64人で、前年同期比で+18人となりました。主な業種別では、製造業が21人（前年同期比+11人）、建設業が8人（同-5人）、運輸交通業が7人（同+3人）、商業が7人（同+4人）、保健衛生業が6人（同-2人）などとなっています。事故の型別では、「転倒」が25人（同+10人）、「墜落、転落」が17人（同+6人）、「はさまれ、巻き込まれ」が5人（同+4人）などとなっています。今年も年代が高いほど被災者が多い特徴に変化がなく、とくに60代での発生が最も多い状況となっています。（エジブルドリガイトライへの取組が必要）